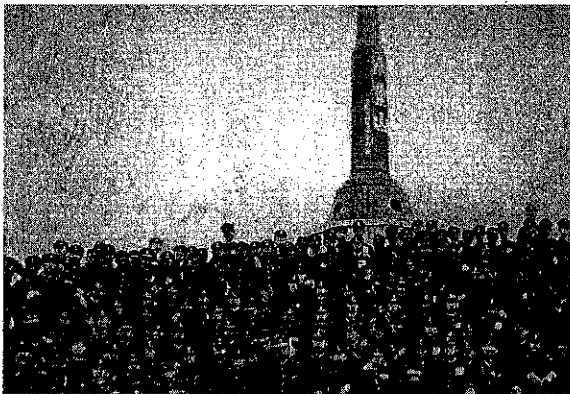
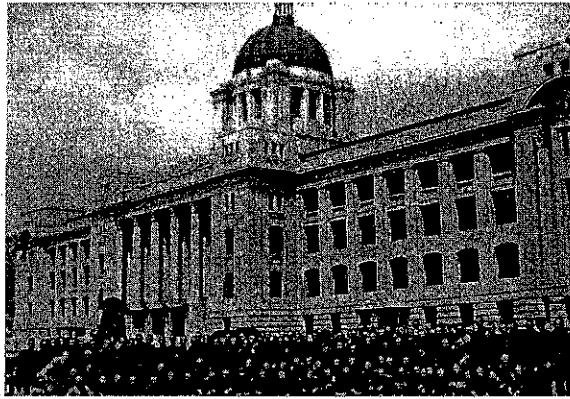


下商物語

「満鮮修学旅行の思い出」

寄稿 宇都宮 博氏 (昭和15年卒)



昭和10年卒業アルバムより

当時(昭和初期)の下商の修学旅行は何とも豪華なもので、十日間余にも亘る「満鮮旅行」は他校の羨望の的でした。この大旅行は大正十三年に始まり、昭和十二年の日中戦争の拡大によって中止されるまで十四回行われました。費用七十円余は当時としては大金、そこで大半の生徒は毎月幾らかを積み立てて学校に預かってもらうことにしました。

さて、私たちの旅行(十一回目)は、昭和九年五月十一日から二十日までの十二日間の行程で、その

記録は生徒四名が地区毎に分担し、当時の校友会誌に「満鮮旅行記」として発表しました。ところが私の報告書(毎日の見学コースをリスト・アップしたもの)だけが何かの手違いで掲載されず、そのままになってしまいました。永い時を経て、このたび思いがけず下商新聞に「修学旅行の思い出」の一端として掲載されることになり、古い昔の原稿がやっと日の目を見ることができたというわけです。

「第十一回満鮮旅行コース略記」
引率教師 藤沢秀則先生、平野行蔵先生、中村軍事教練教官
五月十一日(金)
一〇時三〇分 景福丸にて下関港を出発、一八時三〇分 釜山港着
龍頭山神社参拝後に市内見学、二時二〇分車中泊
十二日(土) 七時三〇分京城着
南大門・商工奨励館・朝鮮神宮・景福宮・勤政殿・慶会楼・昌慶苑・博物館・動物園等を見学
(三重旅館泊) 夕食後自由行動
十三日(日) 八時四〇分 京城発、一四時五〇分平壤着 瑞氣公園・平壤神社・七星門・博物館・乙密台・大同江を船で下る 箕子陵・玄武門・永明寺・浮碧楼・牡丹公園等を見学(つばめ屋旅館泊)

十四日(月) 早朝発 一二時三〇分 新義州着(徒歩で鴨綠江橋渡り) 一二時五〇分 安東(満州)着 休憩後、列車で奉天に向かう 一九時三〇分 奉天着
(日進館泊)
十五日(火) 八時 奉天発 一時 撫順・大山坑・オイルシエール工場 一時 奉天発 新京に向かう(車中泊)
十六日(水) 六時 新京着 旭ホテルで朝食・休憩、新政府・南嶺・満州中央銀行・日本大使館・

国都建設局 一時三〇分 再び奉天へ 一九時三〇分到着(旭ホテル着)
十七日(木) 奉天市街見学 四人乗馬車三八台分乗 忠靈塔・同善堂・北陵・柳条溝・北大營・吉自順系紡 二〇時五五分 乗車・大連に向かう(車中泊)
十八日(金) 七時〇〇分 大連着 満蒙資源館・三泰油房・墨が浦小盗犯市、忠靈塔を見学 宿舎南満ホテルで在満先輩主催の歓迎会(大連泊)
十九日(土) 九時一〇分 旅順着 馬車に分乗して二〇三高地へ 白玉山・表忠塔・水師營・東雞冠山北堡壘・旅順港 一八時一〇分 大連帰着 夕食後自由行動(南満ホテル泊)
二十日(日) 午後 ウスリー丸乗船 大連出発
二十一日(月) 船中泊
二十二日(火) 朝 門司港着 振り返って当時の印象や行動についてはほとんど記憶も薄れたようですが……

七十数年の歳月を経て歴史も大きく変わり、かつての朝鮮は韓国と北朝鮮に分断され、満州は消えて中国に。
「満鮮旅行」も今では遠い昔話として私たちの記憶に残るのみとなりました。

※本校の修学旅行は、記録によると明治三五年から 満鮮へは、大正一三年から昭和一四年まで一六回に亘って実施された。筆者の宇都宮氏は、昭和十年卒業生の会(十和会)の世話人として活躍された。また、先日開催された講堂お別れの会で、講堂完成までの思い出話を語っていた。